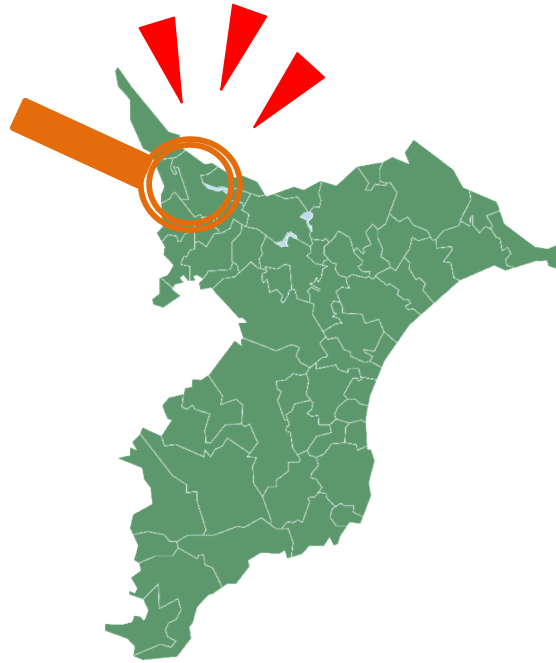


2025・12

# 柏の景気情報

令和7（2025）年12月の調査結果



柏商工会議所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所

〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18

TEL : 04-7162-3305

FAX : 04-7162-3323

URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>

E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

# 柏の景気情報 (令和7年12月の調査結果のポイント)

## ★調査結果のまとめ

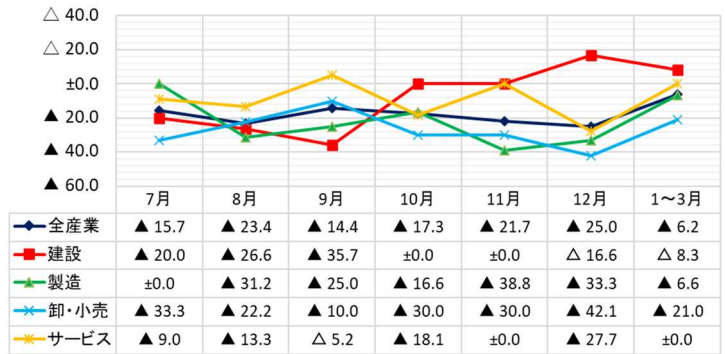
回答期間：令和7年12月19日～令和8年1月6日 調査対象：柏市内173業所及び組合にヒアリング、回答数64

原価上昇やコスト高による経営課題は依然続くも、各業界では新年を見据えた先行投資等に期待か

12月の全産業合計の業況DI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲25.0（前月水準▲21.7）となりマイナス幅が3.3ポイント拡大した。

各業界、イベント事業が思いのほか伸びず、売上は横ばい。建設業では、大型公共事業が堅調なのに加え、防災関連事業の需要増加から先行きの見通しも好調。一方、卸・小売業では、需要と供給による品目ごとの売上に差はあるものの、イベント時期の売上としてはやや低調。来年の春に向けて課題改善を図るコメント多数。

柏の景気情報・産業別業況DI



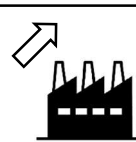
## ★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



建設業

「エネルギー価格高騰の内、ガソリン価格が下がったことにより、車両に係わるコストが下がったことは好材料であるが、弊社の場合その関連割合は多くないため、引き続きエネルギー価格や物価上昇に伴うコスト抑制について取り組む必要性は変わらない。売上の12月実績と今後の見通しについては、大型公共工事業が堅調であることと、防災関連事業の需要の高まりから好調と判断される」（地質調査）「12月は畳工事が増加した。」（畳工事請負・畳製造販売）



製造業

「化粧品容器の受注がインバウンドで回復傾向にあったが、日中関係悪化による訪日客の減少で影響が出るのが心配」（プラスチック加工）「生産性向上に注力し、給与改訂の検討していく」（油脂加工製造業）「年明け早々売上並びに利益が予想以上に悪化した。ここ数カ月は辛抱。」（その他の鉄鋼業）



卸・小売業

「12月はブラックフライデーの反動若しくは気温高止まりの影響か、衣料と住居余暇関連の季節ものが不振。食品は米と卵の相場高や冷凍食品が好調、反対に、相場が崩れている農産や不漁及び価格高騰の水産が厳しく、特にお惣菜はコロナ禍の外食離れで潤っていたものが、ここに来て外食の復活で売上が厳しい（自店でもフードコートは賑わっている）ヘルス&ビューティはインフルエンザが前倒しで流行し「処方箋」「市販薬」「予防」で大きく伸長している。この状況は2月の決算まで続く見込みで、経費削減を進めて最終利益の確保に動いているが先は見通せていない。」（大型小売）「前年と同時期に歳末イベントを行ったが、あまり集客も売上も良くなかった」（その他の各種商品小売業）



サービス業

「国内旅行は熊の影響が大きく、取り消しが相次いだ。海外旅行は円安の影響を懸念しつつもコロナ前の水準に戻しつつあり、令和8年は期待がもてる」（旅行）「売上増収も食材や質材、おせち料理の原価上昇などにより利益は横ばい」（日本料理）「省力化の設備や、従業員の猛暑対策の設備などを導入したいため、補助金や助成金を活用していきたい」（ゴルフ練習場）「学習塾は1月から4月が最も問い合わせが増えるため、広告宣伝を考えているが、新聞チラシなど最早効果が見込めないため、どのように認知してもらうか、媒体の選定に悩んでいる」（学習塾）

## ★全国の商工会議所早期景気観測調査 (CCI-LOBO) との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲25.0に対し、「CCI-LOBO」が▲18.0で、柏のほうがマイナス幅が7.0ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。

# 今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI
<b>業況DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 16.6	 ▲ 33.3	 ▲ 42.1	 ▲ 27.7
CCI-LOBO	 ▲ 18.0	 ▲ 14.7	 ▲ 21.6	 ▲ 24.0	 ▲ 9.9
<b>売上DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 8.3	 ▲ 40.0	 ▲ 36.8	 ▲ 22.2
CCI-LOBO	 ▲ 5.6	 ▲ 7.5	 ▲ 8.1	 ▲ 8.4	 5.1
<b>採算DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 21.8	 33.3	 ▲ 46.6	 ▲ 31.5	 ▲ 27.7
CCI-LOBO	 ▲ 17.7	 ▲ 14.7	 ▲ 18.4	 ▲ 21.0	 ▲ 13.7
<b>仕入単価DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 60.9	 ▲ 50.0	 ▲ 60.0	 ▲ 68.4	 ▲ 61.1
CCI-LOBO	 ▲ 59.7	 ▲ 63.1	 ▲ 57.0	 ▲ 65.0	 ▲ 59.3
<b>従業員DI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 23.4	 50.0	 13.3	 10.5	 27.7
CCI-LOBO	 22.4	 39.3	 12.3	 15.6	 28.9
<b>資金繰りDI</b>	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 10.9	 ▲ 8.3	 ▲ 20.0	 ▲ 5.2	 ▲ 11.1
CCI-LOBO	 ▲ 12.1	 ▲ 7.5	 ▲ 14.3	 ▲ 18.9	 ▲ 9.5

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (12月速報)

調査期間：2025年12月11日～17日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

業況DIは、物価高が重荷で力強さ欠き、ほぼ横ばい

先行きは、長引く経営課題多く、慎重な見方続く

12月の全産業合計の業況DIは、▲18.0と前月比からマイナス0.1ポイント。

建設業では、公共工事や設備投資が堅調で改善した。卸売業では、生鮮品の価格高騰に落ち着きが見られたことなどから食料品関係を中心に改善した。小売業では、価格転嫁が進展し、改善した。一方、サービス業では、一部地域の旅館や観光施設で団体客数が減少しており、悪化した。また、製造業では、原材料価格の上昇が続く飲食料品関係で採算が悪化したほか、住宅関連工事の減少を受けた木材製品製造業で引き合いが減少し、悪化した。冬季賞与の支給効果もあ

って消費マインドは持ち直しつつあるが、コスト増による採算悪化や物価高に伴う節約志向は継続しており、業況はほぼ横ばいとなった。

先行き見通しDIは、▲17.8と今月比からプラス0.2ポイント

高水準での賃上げが下支えとなる中、政府のガソリン・軽油の値下げ、電気・ガス代支援をはじめとする物価高騰対策への期待もあり、消費マインドは回復傾向が見込まれる。

一方、円安伸長等による仕入価格の上昇や最低賃金の引き上げを含む労務費上昇など、コスト増加分の価格転嫁や人手不足等、依然として経営課題は山積しており、先行きは慎重な見方が続く結果となった。

#### 【建設業】

「売上は増加しているが、労務費上昇分に見合うほどではなく、自社の利益を切り崩しての賃上げとなっており、まっぴり（舗装工事業）」

「青森県東方沖で発生した大きい地震の影響で耐震に対する意識が一段と高まっており、今後の耐震性補強工事の需要増が見込まれる。政府や自治体の補助金等の支援による後押しを期待している」（一般工事業）

#### 【製造業】

「全国的に住宅着工件数が激減している。少子化という構造的な問題に加え、近年の建設コストの急上昇の影響で物件価格が高騰しており、持ち家を検討する人が減ったのが原因である」（木材製品製造業）

「円安が続いているため、仕入価格は高止まりし続けており、賃上げの原資である自社の収益を圧迫し続けている」（繊維機械製造業）

#### 【卸売業】

「夏場から全体的に高値が続いていた青果市況に落ち着きが見られている。様々な食料品の価格が高騰し続ける中、国内産の生鮮品が安価になることはとても嬉しいこと

であり、当社が運営している飲食店においても利益率が改善している」（食料・飲料卸売業）

「当社の部品の納入先である自動車関連業では、中国経済の減速を受け、先行き不透明な状況が続く見込みである」（一般機械器具卸売業）

#### 【小売業】

「お歳暮ギフト商戦の恩恵を受けているが、前年と比べると1割ほど受注が減少している。お歳暮を贈る世代が高齢化していることを踏まえ、自宅用の商品を拡充したものの、物価高による買い控えもあつてか補填にはなっていない」（百貨店）

「消費者の節約志向は高まっているものの、原材料費や物流の上昇分について価格転嫁が進み、採算は持ち直している」（化粧品小売業）

#### 【サービス業】

「忘年会の予約は出足も早く、堅調に推移している。昨年に比べ、大人数での宴会が増えている印象」（飲食店）

「中国からの団体客が緩や

かに減っている。先行きの影響も不透明であるため、当店を訪れる外国人の国別比率の分散を検討するなど、対策を考えていきたい」（旅館）

### 全国・産業別業況DIの推移

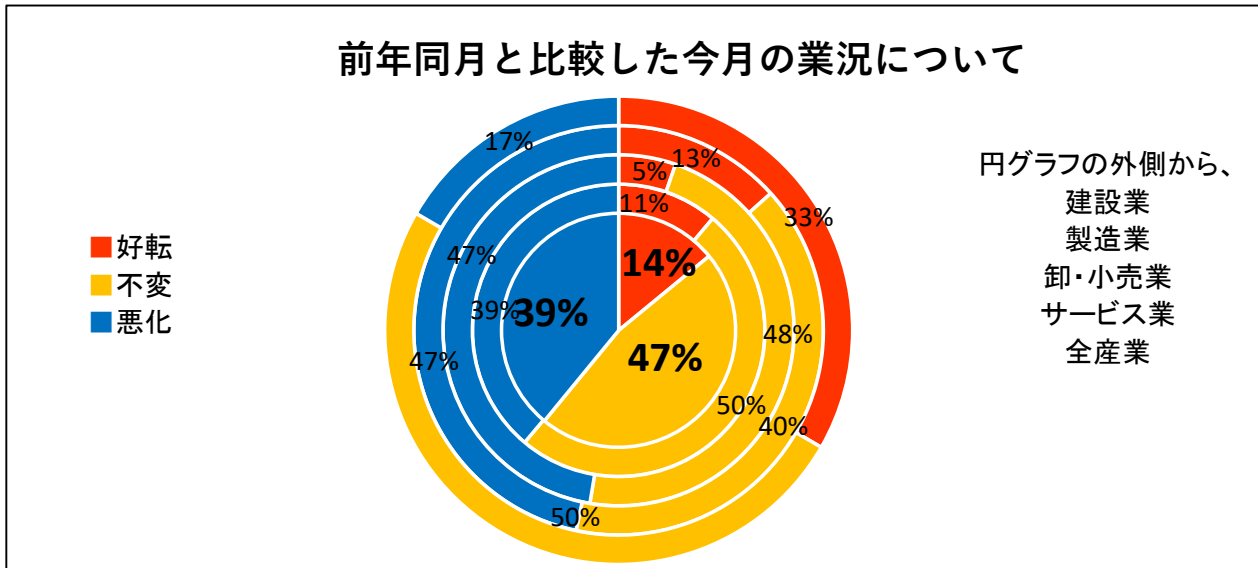
「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲18.9	▲12.3	▲20.0	▲18.7	▲27.1	▲15.8
8月	▲18.8	▲13.4	▲19.7	▲26.6	▲27.0	▲11.6
9月	▲18.6	▲10.2	▲23.9	▲24.8	▲23.6	▲12.3
10月	▲18.9	▲13.5	▲21.0	▲24.2	▲29.3	▲10.0
11月	▲17.9	▲16.5	▲19.7	▲24.7	▲26.4	▲7.7
12月	▲18.0	▲14.7	▲21.6	▲23.4	▲24.0	▲9.9
見通し	▲17.8	▲11.7	▲17.6	▲23.8	▲22.8	▲15.6

# 令和7年（2025年）12月の動向

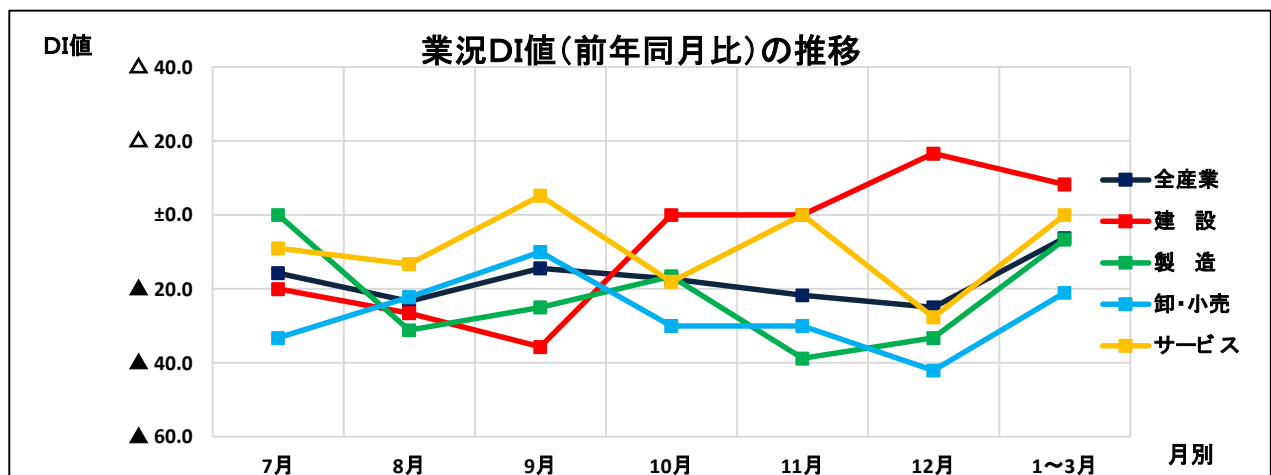
## 【業況について】

- 12月の全産業合計のDI値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲25.0（前月水準▲21.7）となり、マイナス幅が3.3ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月（1月から3月）の先行き見通しについては、全産業では、▲6.2（前月水準▲5.7）となり、マイナス幅が0.5ポイント拡大した。



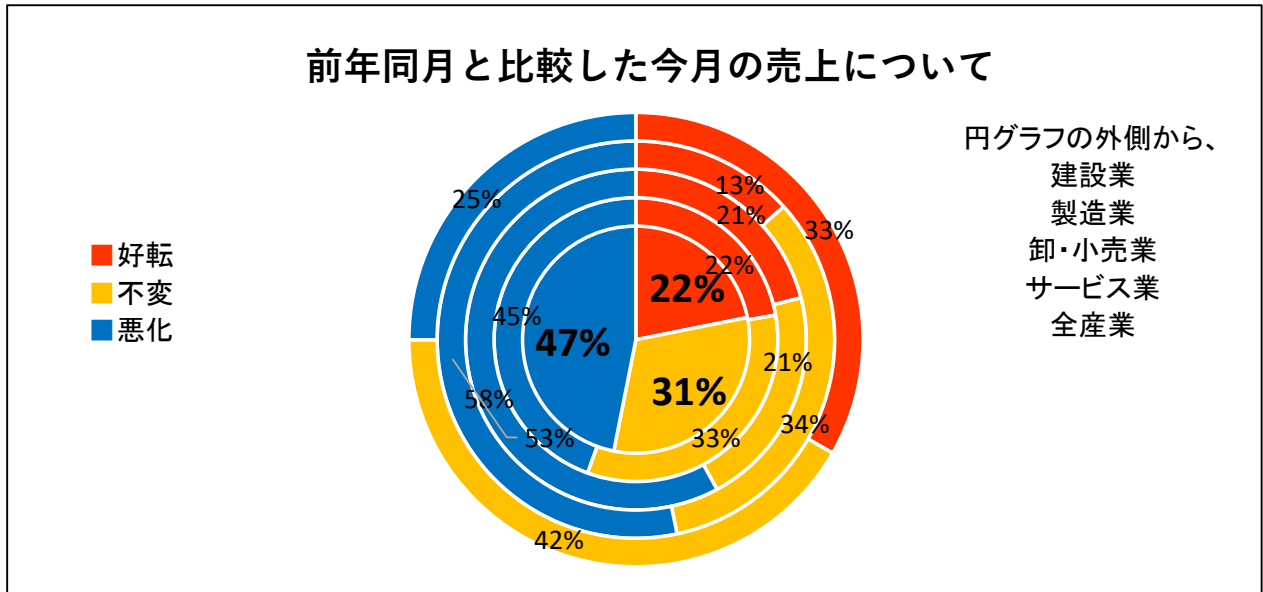
業況DI値（前年同月比）の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)	
全産業	▲15.7	▲23.4	▲14.4	▲17.3	▲21.7	▲25.0	▲6.2 (▲5.7)	
建設	▲20.0	▲26.6	▲35.7	±0.0	±0.0	△16.6	△8.3 (△18.1)	
製造	±0.0	▲31.2	▲25.0	▲16.6	▲38.8	▲33.3	▲6.6 (±0.0)	
卸・小売	▲33.3	▲22.2	▲10.0	▲30.0	▲30.0	▲42.1	▲21.0 (▲25.0)	
サービス	▲9.0	▲13.3	△5.2	▲18.1	±0.0	▲27.7	±0.0 (▲5.0)	



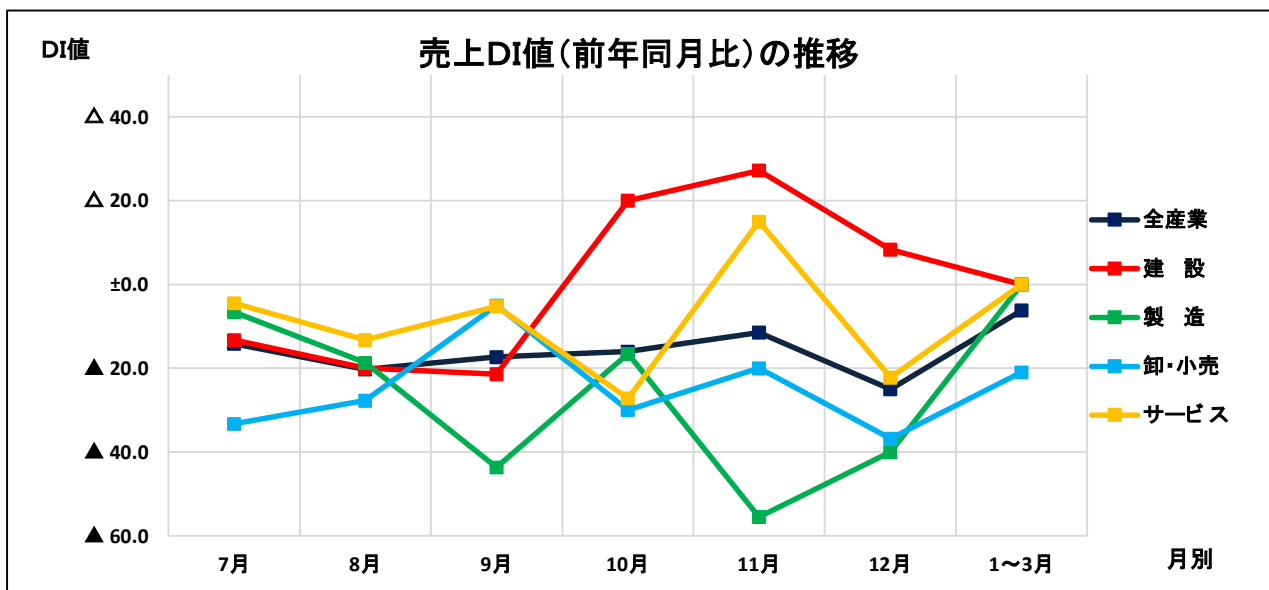
【売上について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.0(前月水準▲11.5)となり、マイナス幅13.5ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.2(前月水準▲1.4)となり、マイナス幅が4.8ポイント拡大した。



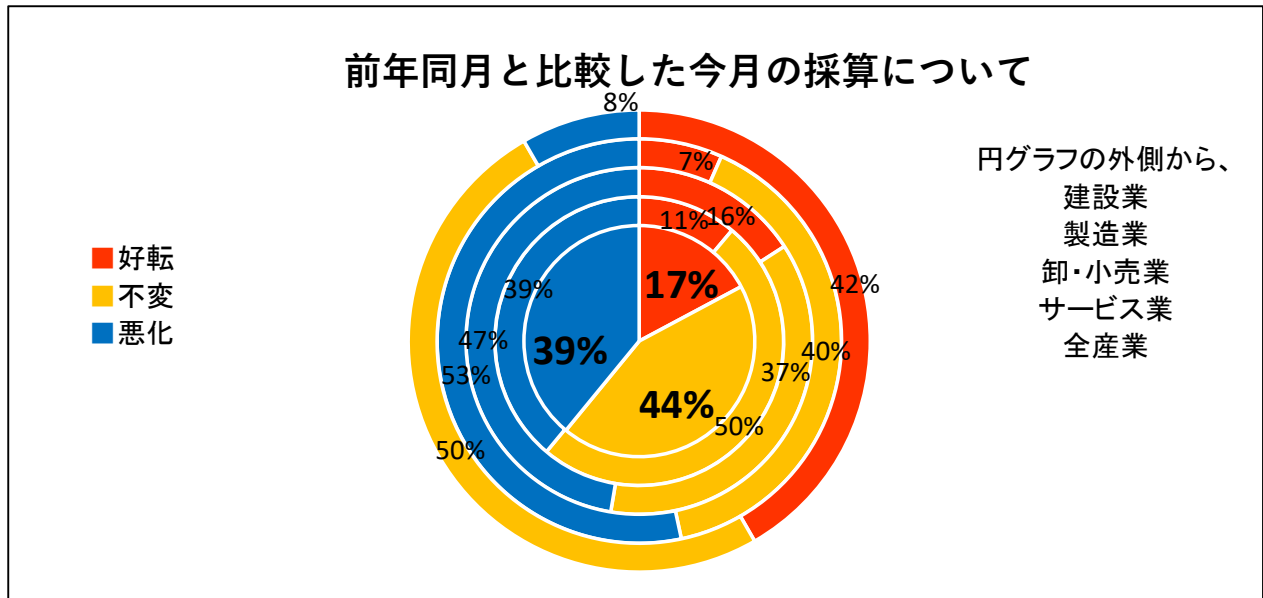
売上DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「増加」の回答割合-「減少」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	(12~2月)
全産業	▲14.2	▲20.3	▲17.3	▲16.0	▲11.5	▲25.0	▲6.2	(▲1.4)
建設	▲13.3	▲20.0	▲21.4	△20.0	△27.2	△8.3	±0.0	(▲18.1)
製造	▲6.6	▲18.7	▲43.7	▲16.6	▲55.5	▲40.0	±0.0	(△5.5)
卸・小売	▲33.3	▲27.7	▲5.0	▲30.0	▲20.0	▲36.8	▲21.0	(▲5.0)
サービス	▲4.5	▲13.3	▲5.2	▲27.2	△15.0	▲22.2	±0.0	(△5.0)



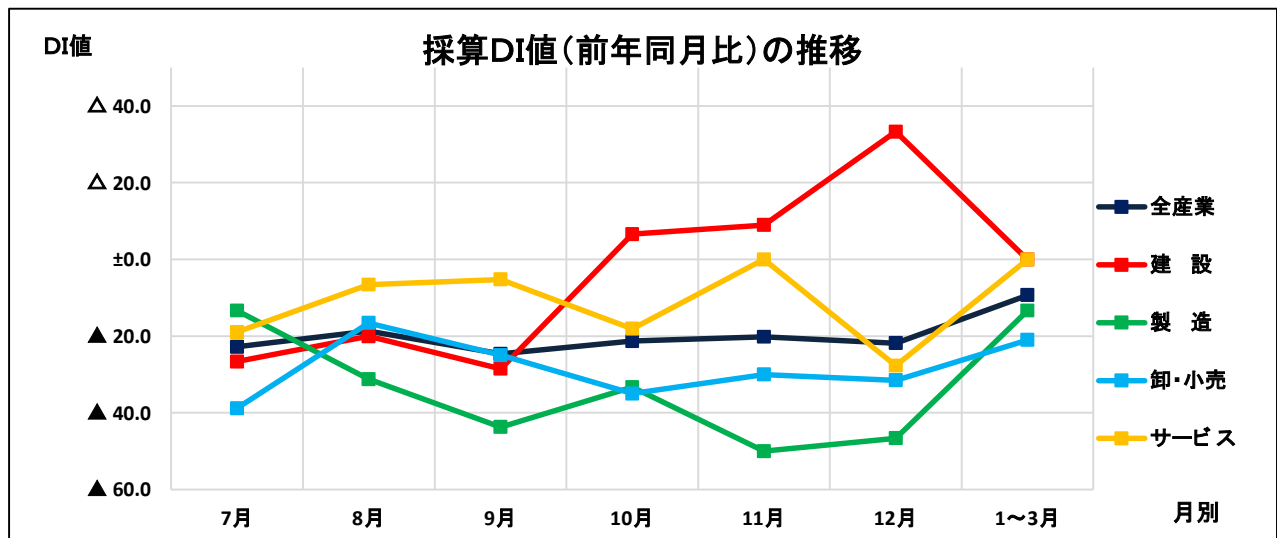
【採算について】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲21.8(前月水準▲20.2)となり、マイナス幅が1.6ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲9.3(前月水準▲10.1)であり、マイナス幅が0.8ポイント縮小する見通しである。



採算DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

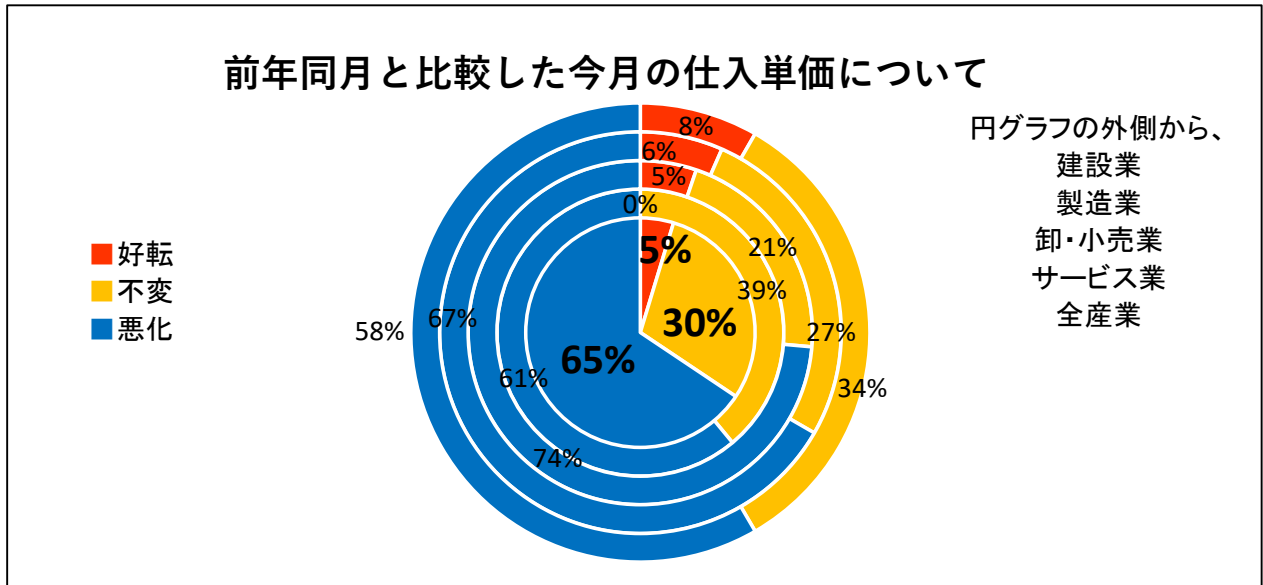
	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)	
全産業	▲22.8	▲18.7	▲24.6	▲21.3	▲20.2	▲21.8	▲9.3 (▲10.1)	
建設	▲26.6	▲20.0	▲28.5	△6.6	△9.0	△33.3	±0.0 (±0.0)	
製造	▲13.3	▲31.2	▲43.7	▲33.3	▲50.0	▲46.6	▲13.3 (▲11.1)	
卸・小売	▲38.8	▲16.6	▲25.0	▲35.0	▲30.0	▲31.5	▲21.0 (▲20.0)	
サービス	▲19.0	▲6.6	▲5.2	▲18.1	±0.0	▲27.7	±0.0 (▲5.0)	



【仕入単価について】

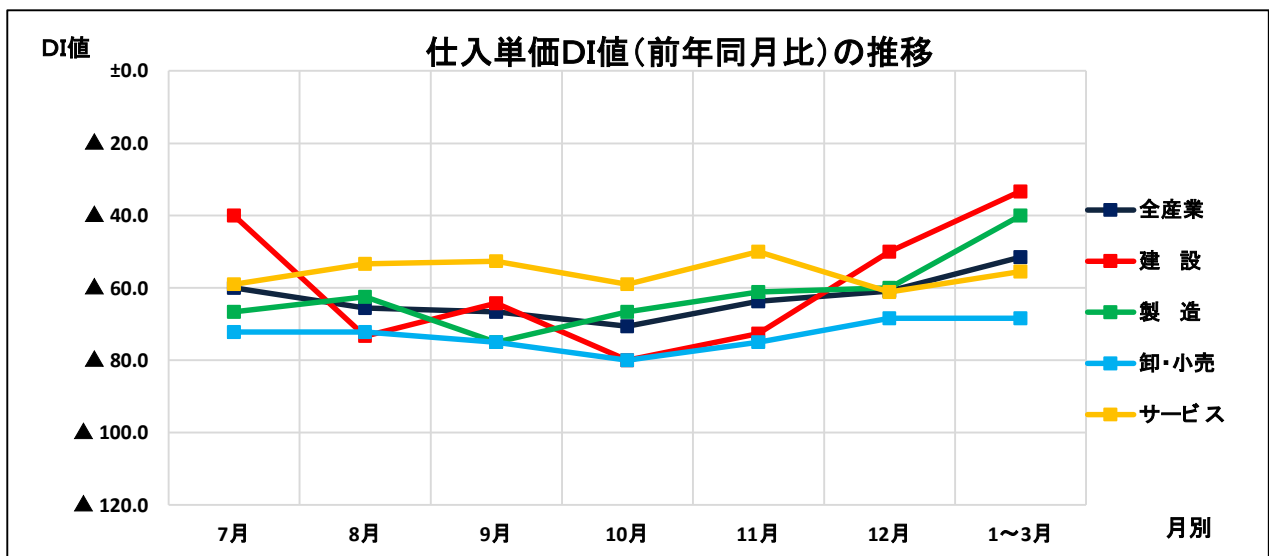
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲60.9(前月水準▲63.7)となり、マイナス幅2.8ポイント縮小した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲51.5(前月水準▲57.9)となり、マイナス幅が6.4ポイント拡大する見通しである。



仕入単価DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「下落」の回答割合-「上昇」の回答割合

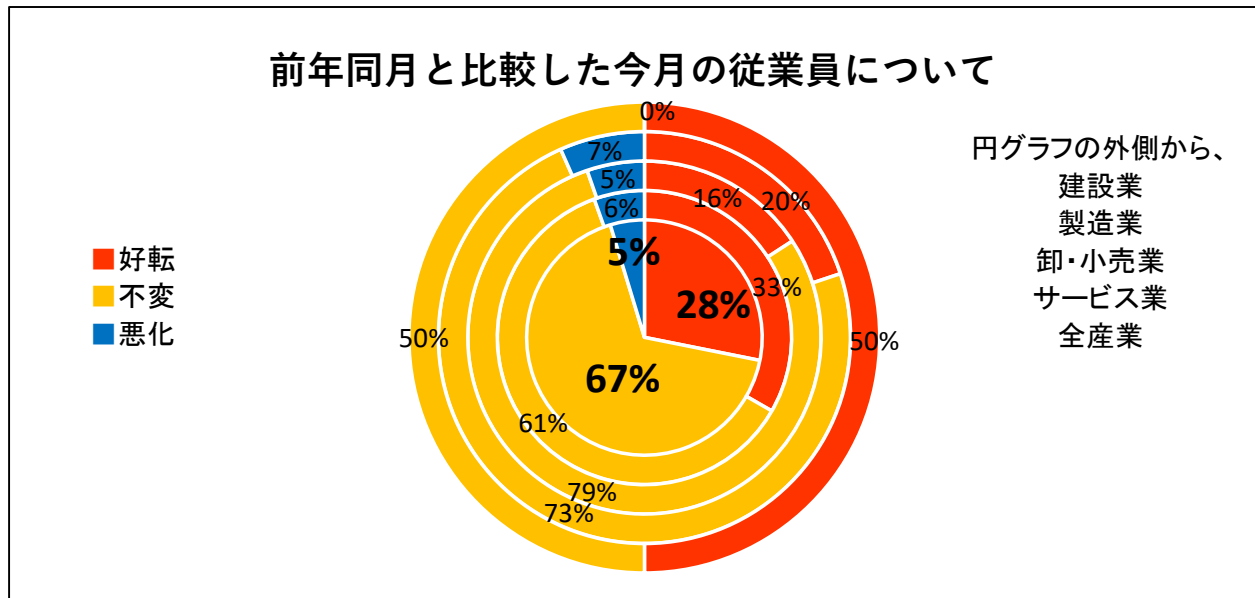
	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月 (12~2月)	
全産業	▲60.0	▲65.6	▲66.6	▲70.6	▲63.7	▲60.9	▲51.5 (▲57.9)	
建設	▲40.0	▲73.3	▲64.2	▲80.0	▲72.7	▲50.0	▲33.3 (▲45.4)	
製造	▲66.6	▲62.5	▲75.0	▲66.6	▲61.1	▲60.0	▲40.0 (▲50.0)	
卸・小売	▲72.2	▲72.2	▲75.0	▲80.0	▲75.0	▲68.4	▲68.4 (▲75.0)	
サービス	▲59.0	▲53.3	▲52.6	▲59.0	▲50.0	▲61.1	▲55.5 (▲55.0)	



【従業員について】

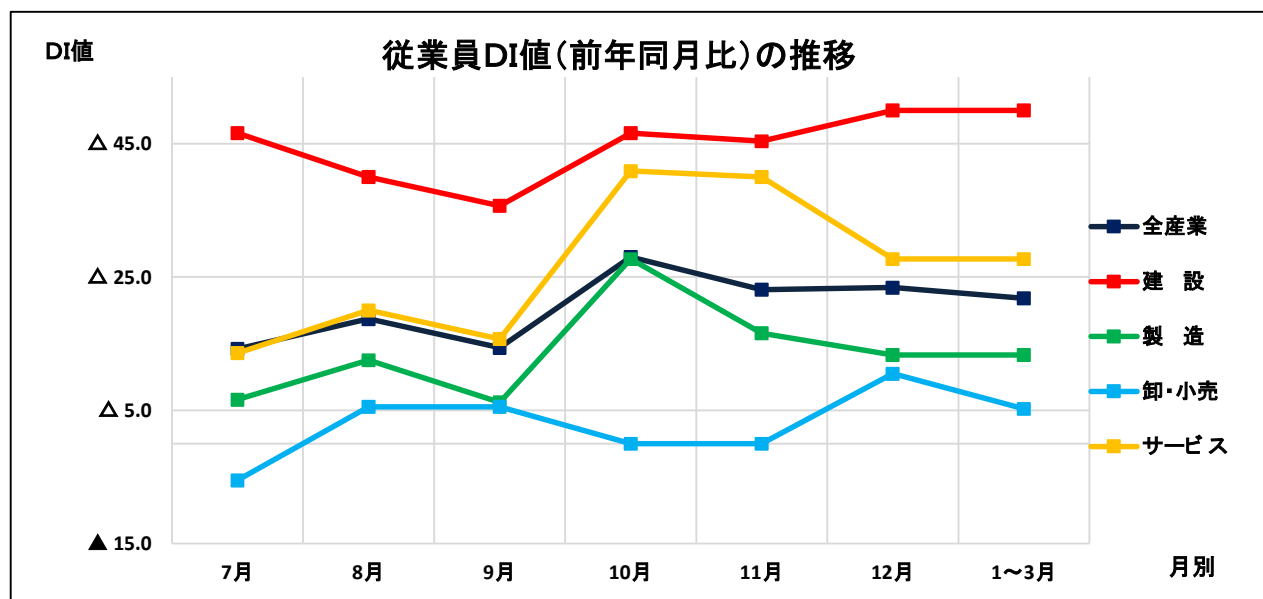
○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△23.4(前月水準△23.1)となり、プラス幅が0.3ポイント拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△21.8(前月水準△27.5)となり、プラス幅5.7ポイント縮小する見通しである。



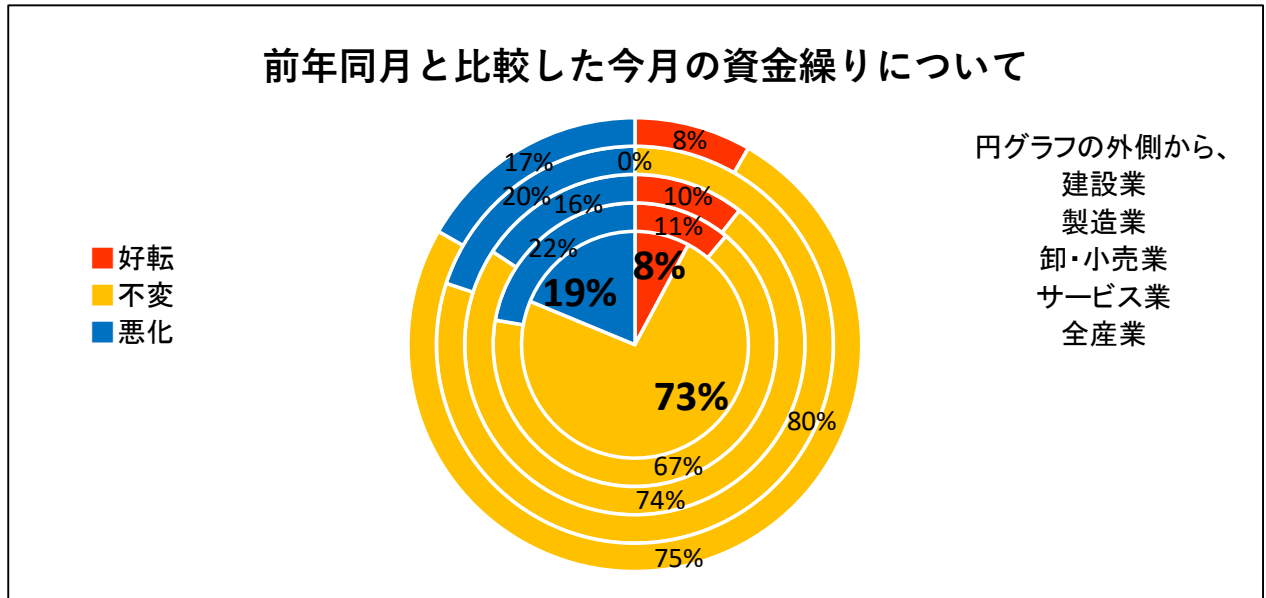
従業員DI値(前年同月比)の推移 ※DI=「過剰」の回答割合-「不足」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	(12~2月)
全産業	△14.2	△18.7	△14.4	△28.0	△23.1	△23.4	△21.8	(△27.5)
建設	△46.6	△40.0	△35.7	△46.6	△45.4	△50.0	△50.0	(△36.3)
製造	△6.6	△12.5	△6.2	△27.7	△16.6	△13.3	△13.3	(△27.7)
卸・小売	▲5.5	△5.5	△5.5	±0.0	±0.0	△10.5	△5.2	(△10.0)
サービス	△13.6	△20.0	△15.7	△40.9	△40.0	△27.7	△27.7	(△40.0)



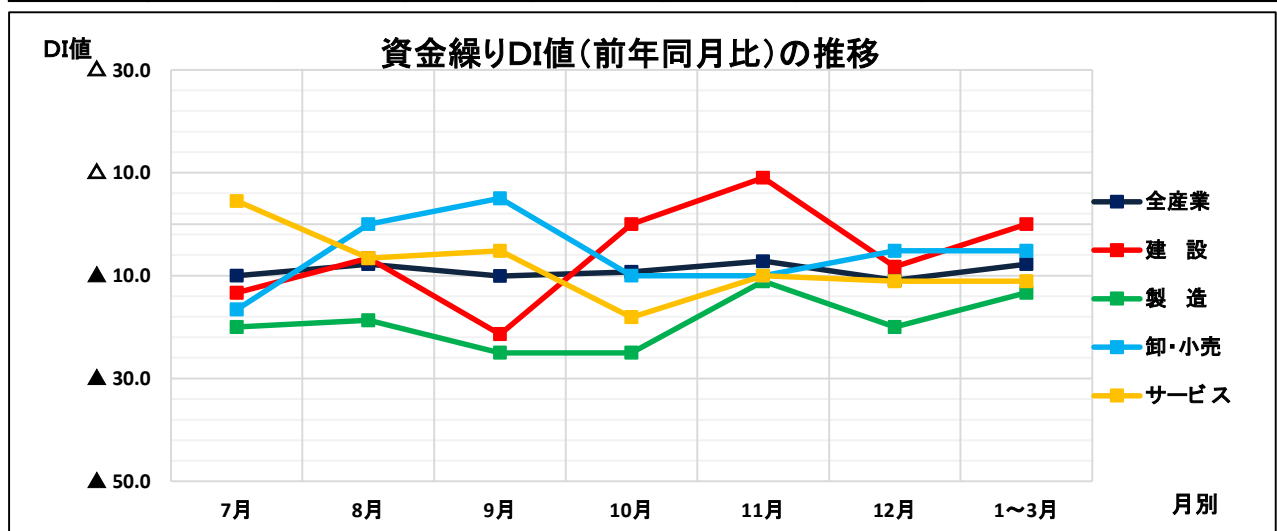
【資金繰りについて】

- 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲10.9(前月水準▲7.2)となり、マイナス幅が3.7ポイント拡大した。
- 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲7.8(前月水準▲10.1)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。



資金繰りDI値(前年同月比)の推移 ※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合

	令和7年						先行き見通し	
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1~3月	(12~2月)
全産業	▲10.0	▲7.8	▲10.1	▲9.3	▲7.2	▲10.9	▲7.8	(▲10.1)
建設	▲13.3	▲6.6	▲21.4	±0.0	△9.0	▲8.3	±0.0	(±0.0)
製造	▲20.0	▲18.7	▲25.0	▲25.0	▲11.1	▲20.0	▲13.3	(±0.0)
卸・小売	▲16.6	±0.0	△5.0	▲10.0	▲10.0	▲5.2	▲5.2	(▲20.0)
サービス	△4.5	▲6.6	▲5.2	▲18.1	▲10.0	▲11.1	▲11.1	(▲15.0)

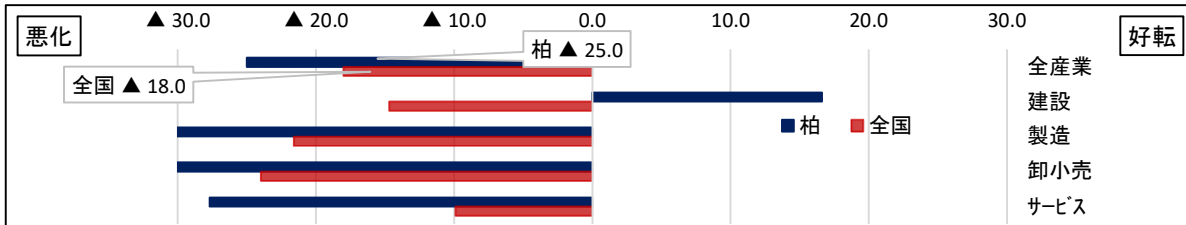


# 全国（CCI-LOBO）との比較

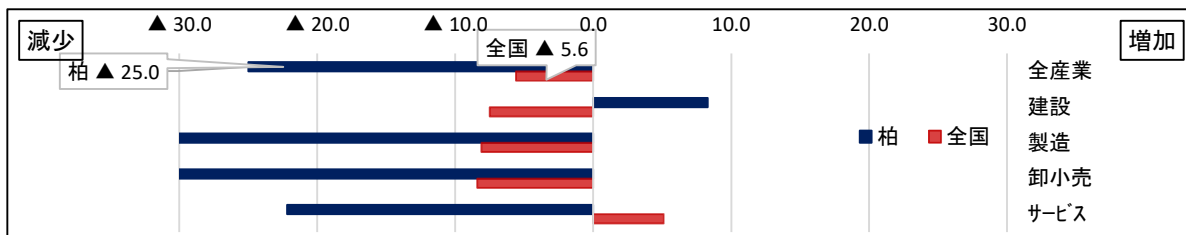
## 【CCI-LOBOとは】

日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

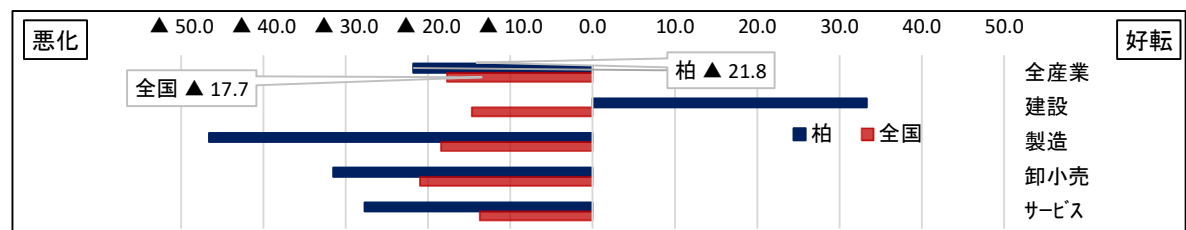
### 【業況D I】



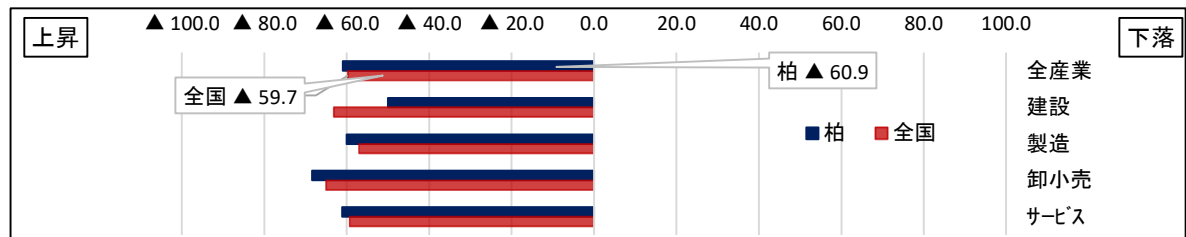
### 【売上D I】



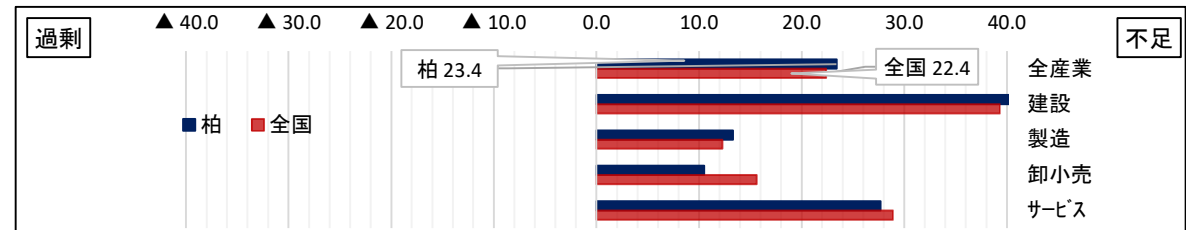
### 【採算D I】



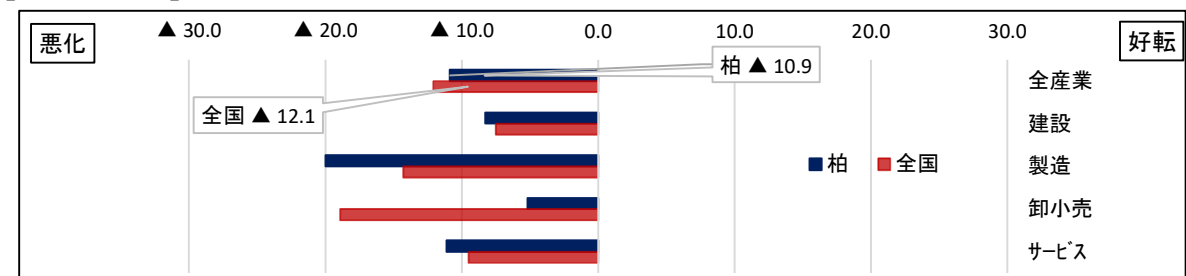
### 【仕入単価D I】



### 【従業員D I】



### 【資金繰りD I】



## 【業種別】 業界内トピックス

業種別	概 況	業種
<b>建設業</b>	12月は畳工事が増加。本年もよろしくお願いたします。	畳工事請負・畳製造販売業
	エネルギー価格高騰の内、ガソリン価格が下がったことにより、車両に係わるコストが下がったことは好材料であるが、弊社の場合その関連割合は多くないため、引き続きエネルギー価格や物価上昇に伴うコスト抑制について取り組む必要性は変わらない。 売上の12月実績と今後の見通しについては、大型公共事業が堅調であることと、防災関連事業の需要の高まりから好調と判断される。	地質調査・地質コンサルタント
<b>製造業</b>	化粧品容器の受注がインバウンドで回復傾向にあったが、日中関係悪化による訪日客の減少で影響出るのが心配。	プラスチック加工
	生産性向上に注力 給与改訂の検討	油脂加工造業
	年明け早々売り上げ、利益とも思いの他悪化ここ数か月は辛抱	その他の鉄鋼業
<b>卸・小売業</b>	11月後半のブラックフライデーが盛況で冬物処分のめどはついた。 12月はブラックフライデーの反動若しくは気温高止まりの影響か、衣料と住居余暇関連の季節ものが不振。 食品は米と卵の相場高や冷凍食品が好調でステープル系(非生鮮)が好調、反対に、相場が崩れている農産や不漁及び価格高騰の水産が厳しく、特にデリカはコロナ禍の外出離れで潤っていたものが、 ここに来て外食の復活で売上が厳しい(自店でもフードコートは賑わっている)ヘルス&ビューティはインフルエンザが前倒しで流行し「処方箋」「市販薬」「予防」で大きく伸長している。 1階のお客さまを2階3階へ上げられていないのが課題である。 この状況は2月の決算まで続く見込みで、経費削減を進めて最終利益の確保に動いているが先は見通せていない。	大型小売店
	前年と同時期に歳末イベントを行なったが、あまり集客も売り上げも良くなかった。	その他の各種商品小売業
<b>サービス業</b>	金利や保険料等の管理費用上昇の為、賃貸契約の更新時には賃料改定(増額)のお願いしている。	不動産賃貸・管理業
	丸井跡も春新規オープンですし、そごう跡地がマンション？と言われてるのは駅前にも人が増えて良いと思う。	不動産賃貸業
	金利の上昇や建築費ネット広告費の値上げが続いている。住宅ローンの金利も上昇気味なので、不動産業界にとっては、逆風が吹いている。	不動産管理業
	学習塾は1月から4月が最も問い合わせが増えるため、広告宣伝を考えているが、新聞チラシなどは最早効果が見込めないため、どのように認知してもらうか媒体の選定に悩んでいます。商工会議所に広告会社の紹介も含めて、気軽に相談ができるとありがたいです。	学習塾
	売上増収も食材や資材、おせち料理の原価上昇などにより利益は横ばい	日本料理

## 【業種別】 業界内トピックス

	<p>省力化の設備や、従業員の猛暑対策の設備などを導入したいが補助金や助成金を活用したいと考えております。</p>	<p>ゴルフ練習場</p>
	<p>国内旅行は熊の衝動により取消が相次いだ、影響はかなり大きい、海外は円安の影響を懸念しつつもコロナ前の水準に戻しつつあり、令和8年は期待が持てる。</p>	<p>旅行</p>

# 調査要領

回答期間

令和7年12月19日 ~ 令和8年1月6日

調査対象

柏市内173事業所及び組合にヒアリング

<業種別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	173	64	37.0%
建設	38	12	31.6%
製造	44	15	34.1%
卸・小売	46	19	41.3%
サービス	45	18	40.0%

調査方法と調査票

下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 （経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック（記述式）

## ※DI値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

## ※DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振
				